

妻木晩田遺跡から発掘される出土品の中に鉄器があります。これらは、小型の工具を中心に400点以上出土しており、一つの遺跡から出土する点数としては国内でも有数です。

現在のわたし達の暮らしの中には、鉄をはじめ、様々な種類の金属を加工して作られた道具が身の回りにたくさんあります。

金属でできたものはとてもじょうぶで、弥生人たちにとっては、とても便利なものでした。



しかし、弥生時代の人々にとって、鉄は、とても貴重で、簡単に手に入るものではありませんでした。なぜなら、当時の日本には、鉄の素材を作る技術がなく、素材は、輸入品であったと考えられているからです。ここ、妻木晩田遺跡では、それらの鉄の素材を加工して、鉄の道具を作っていたあとが見つかっています。では、今回は、弥生人たちが行っていた鉄器作りを体験してみることにしましょう。



妻木晩田遺跡では、海外からもたらされた鉄器が見つかっています。では、その道具の名前はなんと
クイズ いうでしょう。

①タピ ②トウス ③チョウナ ④ヤリガンナ ⇒ ()

弥生時代と同じような方法で、刀子（ペーパーナイフ）作りをしてみましょう。

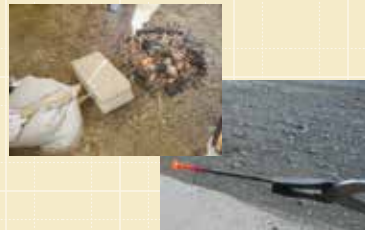
チャレンジしよう

「ペーパーナイフ作り」に挑戦しよう！

【準備】 ふいご、金床、金ばさみ、ハンマー、釘、と石、あさひも、皮手ぶくろ、防じんメガネ



① まきに火をつけ「ふいご」で風を送って、火の勢いを強くします。



② まきが炭の状態になったら、金ばさみで釘を炭の中に入れ、釘が赤くなるまで熱めます。



③ はじめにもち手になる釘の頭をつぶしてから、刃の部分を作っていきます。



④ 表と裏とを交互に入れかえながら、熱いうちにハンマーでたたいて形を整えます。



⑤ と石で水でぬらし、ペーパーナイフの刃の部分を両刃になるようとき出します。



⑥ もち手の部分は危なくないようにあさひもを巻いて、完成です。

豆知識 1 くらしを変えた鉄の道具

妻木晩田遺跡からは、ヤリガンナやチョウナ等、様々な形をした木をけずるための小型の道具がたくさん出土しています。刃のするどい鉄の道具は、かたい木でも加工しやすく、細かい細工もできます。また、少々の刃こぼれなら、刃をとき直して何度も使うことができます。



ヤリガンナ



チョウナ



出土した鉄器

豆知識 2 弥生時代の鉄器作り

弥生時代は、石の道具を使って鉄を加工しました。炭の中で鉄を赤くなるまで熱し、台にする石の上でたたきのばし、折り曲げたり、切ったりして鉄器を作りました。妻木晩田遺跡の竪穴住居の床面からは、赤く焼けた炉のあとや鉄器作りに使った石器、鉄の素材、鉄器片等が見つっています。



炉のあと



鉄器作りの様子

豆知識 3 鉄の来た道～海を通じた交易～

妻木晩田遺跡は、小高い山の上にある遺跡です。そのすそ野には、淀江平野が広がっています。弥生時代には、そこに湖が広がっており、天然の港としての役割を果たしていました。この港を見下ろす山上の集落は、そのムラの本拠地でした。ムラの首長は、日本海沿岸の大きな村々と交易を行い、鏡や鉄器などの貴重な物資を手に入れていたのです。実際に出土した鉄器に、朝鮮半島で作られた「タビ」（土を掘る道具）や北九州で作られた斧があったことから、そのことが裏付けられます。



※みなさんのつくったペーパーナイフの切れあじはどうでしたか？ 今日の「鉄器作り」体験で発見したことやわかったこと等、感想をまとめてみましょう。
